

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 19 年度

【事務事業の基本的事項】

事 務 事 業 名	重要伝統的建造物群保存地区保存整備事業費					
担 当 課 係 名	文化財 課		文化財 係		作成者	高橋 仁
総 合 計 画 で の 位 置 づ け	施策の大綱	明日を担う人材を育む教育文化のまち				総合計画の ページ
	基本計画	芸術文化活動の振興と文化財の保護				
	主要施策	角館重要伝統的建造物群保存地区の保存整備				100
予 算 費 目	一般 会計		10 款 教育費	5 項 社会教育費	4 目 文化財保護費	
事 業 期 間	平成 年度 ～ 平成 年度			新規／継続の区分		継続
性 質 区 分	☐ 市民サービス ☒ 公共事業 ☐ 施設維持管理 ☒ 補助金 ☐ 内部管理					
根 拠 法 令 等	文化財保護法					
事 務 区 分	☐ 自治事務 ☒ 法定受託事務					
運 営 方 法	☐ 直 営 ☒ 直営（一部民間委託） ☐ 民間委託(全部) ☒ 補 助					

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	市民、国民のため、仙北市角館伝統的建造物群保存地区を
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	国選定（重伝建）仙北市角館伝統的建造物群保存地区を保存し、且つ、その公開を図り、もって国民の文化的向上に資するとともに、世界文化の進歩に貢献する。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	今日の観光資源となっている武家屋敷一帯のこの保存地区を、後世に引き継ぐため保存整備事業を実施している。本事業は、文化庁の指導に基づき伝統的建造物の修理、その他の物件の修景を行っている。個人で整備する場合は補助金を交付している。

【事務事業の推移】

(単位：千円)

	項 目		単位	18年度実績	19年度実績	年度実績	
効果	活動指標	伝統的建造物群の構成物件数	棟	55	57		
		整備（修理修景）計画件数	件	2	1		
	成果指標	整備（修理修景）実績件数	件	2	1		
投下コスト	項 目		総事業費	18年度決算額	19年度決算額	年度決算額	
	事業費（人件費を除く）(A)			11,068	6,474		
	財源内訳	国 庫 支 出 金		5,468	3,180		
		県 支 出 金		2,707	1,590		
		地 方 債					
		そ の 他					
		一 般 財 源		2,893	1,704		
	人 件 費 (B)		—	9,816	10,089		
		職 員 数	—	1.3	1.3		
		職 員 平 均 人 件 費	—	7,853	8,071		
	(A) + (B) 投下コスト		—	20,884	16,563		
	単位コスト	活動指標1単位当たりコスト (円)		—	379,709	290,579	
				—	10,442,000	16,563,000	
		市民1人当たりのコスト(円)		—	655	528	

【事務事業の今までの成果】

昭和51年選定来、今日まで継続して事業展開され、武家町としての趣のある町並みとして整備された。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	全国に重伝建地区が80地区を越え、地区間の格差が生じ始めている。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	観光客が増えたことでの、風致の乱れが指摘されている。

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性		判 定 に 至 っ た 理 由
A	A	現状のまま継続（実施）	保存地区内の建造物はすべて木造であり、 永く保存するためには、永続的な事業展開 が必要である。
	B	見直しの上で継続（実施）	
	C	大幅な見直しの上で継続（実施）	
	D	休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
A	国指定である重要伝統的建造物群の保護については、重要な保存、保護活動であり引き続き 必要な事業と考える。

一次評価診断図

